

△石材土石 林野産物の内石材土石の總價額は八十二萬五千四百九十七圓にして内花崗岩五十二萬六千七百八十四圓（六割三分八厘）砂利二十一萬三千四百七十三圓（二割五分九厘）大理石四萬三千三百圓（〇割五分二厘）粘土一萬七千二百二十四圓（〇割二分一厘）其の他二萬四千八百十六圓（〇割三分）にして前年に對比し總價額に於て十五萬九百九十五圓（二割

二分四厘）を増加したが種類別に於ても花崗岩が六萬八千五百三十九圓（一割五分）砂利が七萬九千八百三十六圓（五割九分七厘）大理石が四千七百圓（一割二分二厘）孰れも増加し粘土に於ては三百七十七圓（〇割二分二厘）其の他に於て千七百三圓（〇割六分四厘）を減少した。



### 宮城縣の視察團

——口繪參照——

宮城縣では昨年五月二十三日統計協會を組織し、之が機關誌として「宮城統計」を年四回發行することゝなつたが、更に同會では本縣同様統計事務優良町村の視察をも計畫し、第一着手として千葉、茨

城兩縣へ視察團を派遣することゝなり、一行十四名は同縣統計主事補中村寅雄氏に引率され五月二十六日先づ上京して内閣統計局其の他を視察し、翌廿七日は千葉縣市原郡市原村、印旛郡阿蘇村を視察

して二十八日本縣に來り、水戸市内を見物の後午前十時半頃縣廳に來訪、川崎統計課長から本縣統計事務の概要に付て説明を受け、更に本縣統計事務の今昔と其の進歩改善に就ての沿革等をも尋ねた後渡邊本縣屬の案内にて那珂郡佐野村を視察することゝなり午後一時頃自動車運ねて同村に至り、根本書記並調査員の説明を聞き歸縣した。



我等がまことの

## 勞苦を知るや

武田村 境 勇

昨年實施せる國勢調査は、國策樹立上實に重且つ大なる調査たるは、何人も良く熟知する所にして、今更喋々論議する迄も無いが、斯くの如く國を擧げて、あらゆる宣傳普及に務め、全國民に其の重要性を深く認識せしめ、以て調査に、申告に萬全を期し、萬遺憾無からしめればこそ彼の國家的調査も難無く遂行し得たのである。

の宣傳を要するの切實なるを思ふものである。

もし本調査が形式上の統計ならむかために折角國勢調査に於て費した努力も後者の爲めに破壊され、國家施政上甚だ寒心に堪えざる状態となりはせぬか。論者或ひは云ふ、前者は一般的にして、後者は一部の農家に限ると、諸君、生産は誠に一部のものなりと雖食する者は是れ全國民ではないか、米生産調査はと重大なものはないといつても過言でなからう。

國家は今正に非常時中の非常時に際會してゐる、而して此の非常時中の最も重要な食料の問題に關する米生産調査は、此の際一層眞剣に正確に取扱はねばならぬ。これがためには農家を

蓋し國勢調査とは統計中の人口及び其の動態調査であるが、國家的問題として本調査に次ぐ問題は吾人の生命を繋ぐに必要欠く可からざる我等の主食物たる米、則ち是れを調べる米生産統計調査であつて是亦如何に重要であるかは論を俟たない。

此の意味に於て後者は猶一層國民的

### 町村統計主任者異動

（上は新任 括弧内舊）

昭和十一年四月一日	久慈郡東小澤村
川崎 傳之介	（大貫 正夫）
全 四月十二日	眞壁郡上妻村
須藤 兵一郎	（倉持 守三郎）
全 四月三十日	東茨城郡橋村
農林、商工、人口内務統計	
大石 吉次郎	（内田 重五郎）
學事統計	
關 龜松	（長山 藤之介）
全 全 全	行方郡玉造町
農林商工統計	
佐竹 有信	（成島 彌一郎）
人口統計	
池田 健吉	（須原 郡司）
全 五月七日	久慈郡戸村
山崎 秀吉	（藤田 隆治）
全 五月八日	那珂郡靜村
秋山松之介	（秋山 易司）
全 五月十四日	久慈郡生濱村
鴨志田 一徳	（川上 米次）
全 五月十三日	稻敷郡十余島村
小倉 富次	（飯島 平兵衛）

して深く重大意義を理解せしめ、一面調査員の訓練指導に専心し、尙相共に内外より調査員の使命遂行に、國民舉つて力を効されんことを希望して止まざる所である。

殊に前者國調に比し、後者は調査復雜にして數ヶ月に渡り不斷の努力を要するのであるが、斯くても關係者並に我三千九百名の調査員以外、何程か我等の誠の勞苦を知る者がある。

今其の一端を述べてみよう。調査期は八月より十一月に至る四ヶ月事務愈々進みて、則ち水陸稻、粳糯期上中下各等に、十二ヶ所に渡る坪刈地を決定、是れが刈取り算出、經營者作付、各種各等別に反別に對し、該當坪刈高の合勺に至る微細の計算を立てるなど、實に數百回の算入れをなし、是等の計算高を補助票、基準票等各種の書類に記載愈々米生産統計が爰に産るゝのである。

尙更に事務上の體驗を述べると、朝

ない。

言ふは安く、行ふは難しと、是れ無上の金言ならずや、況んや我等の仕事は熟練堪能な事務家の執務にあらず、百姓の手なれぬ事務である、農閑期の仕事にあらず、農繁最中の激務である此の激務を！我等調査員の此の心勞を！一般國民がも少し理解し、國勢調査の如き深い關心を以て迎へられんことを切望してやまない。

### 人口動態調査票作成に就て

新治郡新  
治村書記 岡田武四郎

人口動態調査票作成に就ては縣の指導監督宜敷を得て、最近其の成績著しく向上しつゝある事は、縣の成績發表を以て明瞭である、之れ實に我々同僚の爲欣喜に堪へない、されど近時自治体の紛議續出に伴ひ、町村吏員の更迭も又頻々行はれ、爲に事務に精通する

から晩まで日中田園に出で、營々として農事に勵み、夜は机を友として一心に事務に勉強す。

殊に刻々迫り来る報告期限接近の十月中旬から十一月上旬の如きは農家の田畑共に愈々深刻なる繁忙を増し、晝の活動も又激しく猫の手も借りたい程忙しい時、本調査もまた本格的の筋に入るのである。

即ち朝に出でゝ夕に歸り、夜は身の責任を痛感して調査事務にセツセと當る時、いつか追迫する疲勞と寐魔と闘ひつゝしばしば鶏鳴の曉を告ぐるを知る、一心力闘、斯くの如き執務數回ならず、斯くして晝は農務に、夜は事務の幾十日かを果して、始めて爰に自信ある我米生産統計が出来あがるのだ。

此の味、此の言、實に調査員にあらずして體驗を談じ得る者何ぞ他に有るや。

我言の針小棒大ならざるに、諸君は必ず御共鳴下さる事と深く信じて疑は

の暇なきは勿論、如何に永年勤続者と雖も限りある力を以て無限の國府縣の委任事務に忙殺さるゝの現況にありて諸法規研究の余暇さへ與へられず、一知半解の中に處理するを以て、時折縣の手續を煩すと云ふ失態を醸す、之れ畢竟自己の足らざる結果の致す處とするも、之れが完璧を期せむには先づ小票作成基本たる人口動態調査票及び送致目錄作成心得並に通牒等をも改正するの要ありと考へられる。

第一に離婚票の氏名に就ては右作成心得第二節第十二ノ七即ち氏名欄には離婚届書に記載しある夫妻の氏名を記入すべしとあるも、戸籍訓令通牒第六百四號第八百三十一號によれば離婚届書には離婚後入るべき家の氏を稱することを得ざる旨規定せられあるを以て夫妻は何れも同姓である、随つて小票夫妻の氏は當然同姓となるに拘らず、離婚後の氏を記入する通牒とは甚だ遺憾と思料せらる、依つて之れが作成心

五四

全 五月二十九日 稻敷郡金江津村  
江口 岳世 (本橋 茂)  
全 六月二日 行方郡立花村  
羽生 宗雄 (今泉 安之助)  
全 六月十五日 眞壁郡養蠶村

農林、商工、内務統計

篠崎 愛三郎 (谷口彦右衛門)

人口統計 成田 顯雄 (篠崎 愛三郎)

學事統計 篠崎 愛三郎 (板橋 悌)

全 五月二十一日 鹿島郡息栖村  
大塚 廣一 (猿田 政一)

### 統計調査員異動 (上は新任 括弧内舊)

昭和十一年四月一日 新治郡美並村

齊藤 簡 (古川 文吾)

全 大山 喜三郎 (大山 好雄)

張替 作次 (木村 安之助)

全 青木 平男 (渡邊 博)

全 眞壁郡大寶村

全 渡邊 喜代松 (篠崎 信一)

全 倉持 林助 (岩上 辰治郎)

全 中山 惣治 (中山 勢太郎)

全 中山 魁太郎 (桑谷 仲四郎)

全 幡谷 甚平 (狩谷 淳)

全 羽生 善胤 (羽生 利兵衛)

全 石井平左衛門 (井野場 重雄)

全 坂本 雅夫 (小沼 勇三郎)

全 千ヶ崎 誠一 (遠藤 平次郎)

全 菅谷 泰助 (舟串 恭藏)

全 荒井 精一 (遠藤 武雄)

全 青木 彌一郎 (青木 清治)

全 宮本 喜彌 (宮本 信男)

全 作山 清記 (増設に依る新任者)

全 瀧 晋次郎 (全)

全 五月二日 筑波郡長崎村

全 飯泉 庫吉 (増設に依る新任者)

五五

得を夫妻の氏名は各離婚後の氏名を記入する様、改正あつて然るべきかと思ふ。

第二には本調査は各町村とも殆んど戸籍係に於て作成するものである、然して戸籍係の取扱に掛る戸籍届書類の進達相續税第十二條報告現住人死亡、死産、出生報告等は何れも前月分を翌月十日迄に報告すれば可なるも、獨り小票にありては人口動態調査令施行細則取扱手續第二條に基き、村長より知事への進達は翌月五日迄にして五日迄には日曜ある場合多き爲期限迄に進達は極めて困難なるのみならず、整理期間中無理に進達するを以て自然不備件數も増加するものと考へられるが故に同條中市長の知事に進達する期限同様十日迄にと改正すれば幾分不備件數も減少するものと思ふ。

第三には市町村送致目録中  
(縣府) 役所 の下に村長印を押  
(市郡) 役場 捺する定めなるも

の主任を命ぜられてより早くも五年の歲月が過ぎ去つてしまつた。

今では統計事務にもなれて、その業績はどうやら本郡下に於ても認められる様になり、時折は縣よりも褒めの言葉さへ賜るが擔任當時はどうであつたか――。

東西も知らず、左右も辨ぜざる小兒が大原野に一人置かれて宙に迷へる以上にも似た氣持が偽らざる私の心境であつた。統計の重要さはもとより統計の何たるかをも辨へざる私が果して完全に従事して行かれるか、將又如何にしてこの業績の改善向上を計るべきか自分ながら空恐しくてならなかつた。努力だ！研究だ！この二方途に依つて邁進しよう！と決心しその年の六月十五日限りの桑苗表報告は私の統計事務のスタートとして切られたがそれはまことに拙いものであつた。

従つて折角苦心して報告した書類は數枚の符箋がついて返送されてしまつ

役場とある箇所に村長印とは不合理も甚だしく且誤り易きを以て村長印を押捺する以上、役場とあるを市町村長と之れ亦改正するが當然なりと思ふ、第四には氏名未婚其の他疑はしきものに付ては、從來相違なきことの符箋を貼付したるも、實際取扱上甚だ不便に付右に關しては過般國勢調査の際使用したる檢印を該箇所に捺印する様一定すれば能率増進の一助ともなると思ふ。以上に關し之れが適否を御繁忙恐縮ながら縣の係の方に本誌を通じて御指示願はるれば幾分参考ともなり幸甚の到りである。

### 擔任當時の思ひ出

坂 本 生

十年一日の如しとか云ふが、十年が一日の思ひで過ぎるなら五年は半日に過ぎるであらう、實に過ぎ去りし五年の短かりしことが感じられる。

昭和六年六月就職と全時に統計事務

た、今度もまた今度も……。その度毎に幾度心で泣いたやら、しかしその涙が結晶となつてか次第に事務がわかつて來、統計の完璧を期するには調査員の活動に俟つことの大きなことを初めて痛感した。

調査員の活動！、言ひ易くして仲々行ひ難いことの様に思はれてならなかつたが、先づ是が方法として優良町村の視察に依り實地に見聞し取つて以つて自己の參考に供せんものと縣統計課へ優良町村の御紹介をお願いしたのはその翌年の十一月であつた。縣よりは那珂郡佐野村が最も優秀との御指定があつたので直ちに調査員會を開催して協議を行つた結果、満場一致視察實行が決議された。

その十一月中旬我等關係者一行九名は輝く希望を常磐線列車に乘せて北下し、水戸に下車して白亜の大殿堂、我

五六

全	五月七日	行方郡要村
全	塙 正雄	(平間 鶴二)
全	大場 藤次	(高野 三郎)
全	五月九日	新治郡小幡村
全	藤田 進	(鈴木 政一)
全	富田 福太郎	(鬼澤 鐵之助)
全	羽生 元信	(木 崎 源)
全	高橋 秀夫	(高橋 三郎)
全	五月十二日	新治郡眞鍋町
全	小野 正太郎	(小野 安治)
全	五月十三日	稻敷郡十倉島村
全	成毛 治一	(高木 源助)
全	六月一日	新治郡石岡町
全	櫻井 武平	(竹之内庫之助)
全	六月十一日	新治郡林村
全	小松崎 雅一	(吉川 由太郎)
全	六月十六日	稻敷郡木原村
全	伊藤 遼	(細田 直三郎)
全	四月一日	東茨城郡中妻村
全	大岡 信盛	(大岡 德廣)
全	野上 敬天	那珂郡玉川村
全	長山 正一	(鈴木 重雄)
全	全	(小磯 熊太郎)
全	全	久慈郡佐都村

全	武藤 好文	(武藤 良雄)
全	山田 昇	(増設に依る新任者)
全	池田 三治郎	(全)
全	高野 貫三	(増設に依る新任者)
全	長峰 眞術	(全)
全	星野 太吉	(全)
全	鬼澤 竹雄	(全)
全	飯島 仁	(全)
全	永瀬 貞一	新治郡瓦倉村
全	秋元 善市	(鈴木 兼吉)
全	窪田 虎吉	(岡田 清吉)
全	安田 芳一郎	(窪田 榮助)
全	石濱 謙吉	(安田 助三郎)
全	草間 忠治	(土田 長吉)
全	土田 進	(飯塚 峰藏)
全	鶴見 亨	(土田 彦三郎)
全	四月二十五日	(淺野 眞市)
全	森山 金松	東茨城郡上野合村
全	鳥羽田 廣吉	(増設に依る新任者)
全	全	東茨城郡岩船村

五七

等の茨城縣廳に第一步を印し、直ちに統計課を訪づれた。課長殿より激勵の辭を賜り渡邊屬の御案内にて陸前濱街道に自動車を行ねて佐野村役場に向つたのであつた。同役場は二階建の堂々たる建物で、來意を告げると根本主任は快く我等を二階會議室に招じ、懇切に今日に至れる幾多の尊い經驗談を語られ又種々なる參考書類をみせてくれた。我等は見るもの總てが驚異であつた、根本主任は語られた「總ては熱である努力である」と然り、かねて私の豫期した通りであつた、佐野村統計事務が今日の「充實と完備」を見たのも決して偶然ではない、その背後には斯うした努力家が存在してゐたからであつたことを痛感し同時に我等も懸命なる努力を盡して將來佐野以上たらしんことを深く、肝銘した。斯くして意義深き視察を終りて渡邊屬と水戸驛にてお別れを告げ我等は天下の名瀑袋田瀧に飛沫を浴び更に北進して矢祭山

の絶景を賞して歸村した。

× ×

爾來五ヶ年縣統計課の懇篤なる御指導に依りどうやら面目を一新し、本年四月八日には我が村の調査員米賀喜一郎氏は協會より表彰の光榮に浴するに至つた。

生きた學問と云ふものがあるならばそれは實地の見聞であるとは私に斷ずることに躊躇しない。

當時を追懷し佐野村の發展を遠く祈りつゝ擲筆する次第である。

此の誇り此の法悦

小野川村 成島 一男

我が國は今や實に有史以來の難局に直面してをる。五・一五事件を一楔機として時局は一時平靜に歸し、國運漸く安定するかにみえたが、それも東の間、突如として吾人に衝動を與へた東京事件は一層時局の重大を認識せしめ

良き國策、實現性あるよき國策が生れねばならぬことを切實に我等は感ぜしめられた。吾等は統計事務に携はり永年資料の蒐集に精進して來た、其の仕事たるや地味、然も興味甚だ薄き數字の羅列に過ぎざれど吾等の手懸にかけし資料が、國運進展の上に權威ある數字として有力なる資料となり、之れによつて生きた國策が生れて行く事を思へば、其處に一人法悦にひたれるの思ひがするではないか。

地方行政についても同様の事が謂ひ得る、其處に吾々は立派な誇りを持ち得るのだが、然し其の誇りも、法悦も、吾人職を統計に奉ずる者及關係者が日々努力精進して權威ある數字を造り上げ、所謂全幅の努力を傾注して行つてこそ、つかみ得るものであり、一時逃れの數字や、甚だしく熱意のない態度にて責をふさぐ程度の統計數字を造つて行つたのでは、夫れこそ一村一縣の問題でない、全國の最も熱心に斯業に従事する人達への迷惑であり、統計界

の尊嚴冒瀆だ。私が今回永年統計事務を擔任せし故を以て統計協會總裁閣下より表彰された事は洵に汗顔の至りである。

素より至らざる身の只先輩各位の御指導により過誤なからん事を期せしに過ぎず、未だ全く自信もつかざるに此の榮譽を擔ふ、茲に於て私は今後の私に課せられたる責務の倍加せし事を痛感して益々各位の指導下に、本事務の改善進展の爲めに精進せんことを誓ふものである。

要は人間の一生が勉強である如く、職を公に奉ずる以上只止まざる努力あるのみだ。

米生産統計を顧みて

新治村 小倉 茂

昭和八年三月書記を命ぜられ、直に農林商工統計主任となり、何の學識經驗を持たない私には統計の意義は勿論村の概況さへ分らなかつたために、前

五八

小林 誠一	(三村 龍)
全 五月一日	鹿島郡高松村
辻 注連松	(高木 豊作)
全 全	鹿島郡若松村
宮澤 雄司	(銚子 清次郎)
全 五月五日	久慈郡中里村
鈴木 茂	(鈴木 國一郎)
吉澤 常夫	(弓野 義雄)
全 五月二十日	鹿島郡息栖村
石神 寅次郎	(荒井 孝一)
全 五月十二日	久慈郡世矢村
立原 熊之介	(柴田 國之介)
全 五月二十日	鹿島郡波崎町
田向 義勝	(田向 進)
全 藤代 勝治	(藤代 政次)
全 六月四日	結城郡結城町
全 稻葉 榮治	(稻葉 純八)
全 四月十五日	多賀郡鮎川村
全 黑澤 正	(黑澤 倉藏)
全 五月六日	全 村
全 佐藤 義夫	(佐藤 博)
全 四月一日	西茨城郡岩瀬町
全 仁平 克知	(若色 好男)
全	全大池田村

五九

全 堀 與一郎	(川崎 鐵之助)
全 瀬谷 益藏	多賀郡鮎川村
全 五月一日	(瀬谷 藤太郎)
全 小瀧 義長	西茨城郡七會村
	(牛久保市次郎)
寄贈圖書	
西豊田村村要覽	
卸賣物價月報	
昭和八年年度年報	
昭和朝鮮の人口統計	
大原社會問題研究所	
和歌山縣勢	
統計(五月號)	
浪花の鏡	
福岡縣勢要覽	
米統計	
麥統計	
市町村の産業	
生活調査	
昭和十年國勢調査余聞	
統計時報	
佐賀縣	
福岡縣	
福岡縣總務部	
大阪府統計協會	
千葉縣統計協會	
大原社會問題研究所	
和歌山縣統計協會	
結城郡西豊田村役場	
商工大臣官房統計課	
東京鐵道局	
朝鮮總督府	
内閣統計局	
佐賀縣	

任者の折角築き上げた好成绩も遂に崩れかゝり、調査取扱法は却つて調査員の方が明るかつた。

事に當つては己の本務を全うしなればならない、何仕事でも自分の仕事より他の方が良く見られると同じ、統計も其の一つと思つて居た、然し何事にも努力の後は何時かは報あられる時もあると深く信じて、取扱細則や前年の資料等により村の状況等を調べたりして、初めて統計の如何に細密にして重要なかを深く惱裡に刻みつけた。

辛うじて書類の整理研究中、偶々米生産統計調査法の改正となり、初めて受けた指示事項も難解にして何等要領を得なかつた。勿論八年度の調査は相當努力はしたが面積収量等に違算を生じたりした。

昨年は前の経験よりして先づ作付面積の調査を正確にと補助表の作成を速やかにし、日割を定めて一人毎に検算を厳にし、集計と調査區の面積とを對

照し確めた。また基準票に面積記入終れば再び檢算して出入明細表に記入し全部の終了を待つて交換をなし違算なきを期した。

兼て各調査區を巡回して選定せる坪刈地成績と一般状況とを參照して反當収量を定め調査票の作成に當つた、統計の使命たる迅速にして且つ正確に調査製表するため、期限を出來得る限り延し、眞の收穫高を耕作人に訊問記入したため七十戸を擔當する調査員は非常な苦心であつた。

斯く努力により調査完了したのは日割を定めて一調査區毎に審査し關係書類を受領した爲か、査閱の際にも違算がなかつた。此れ一重に調査員の努力の賜である。

即ち調査の正確を期するには前に助川氏の述べられたるが如く出來得るだけ調査員の打合せを催し執務順序や取扱方を注意することが最も肝要と思つた最後に益々先輩諸賢の御指導を賜り度くお願して擲筆する。

重要礦物資源資料目錄	資源局
貨銀統計月報	商工大臣官房統計課
統計時報	奈良縣統計協會
兵庫統計	兵庫縣統計協會
大分縣統計書一、二、三編	大分縣
統計時報	内閣統計局
道府縣勸業費豫算	農林大臣官房統計課
工場統計表	兵庫縣總務部調査部
食用農産物統計表	農林大臣官房統計課
昭和人口動態統計記述編	内閣統計局
群馬縣統計書	群馬縣
小賣物價月報	商工大臣官房統計課
統計時報	内閣統計局
統計研究會誌	京都府統計協會
北海道統計	北海道統計協會
工業研究輯覽	資源局
昭和神奈川縣統計書	神奈川縣總務部統計調査課
神奈川縣勢要覽	全上
資源(六月)	資源局
重要生産月報	商工大臣官房統計課
專賣局第三七回年報	專賣局
三重の統計(六月號)	三重縣統計協會
水海道町要覽	結城郡水海道町役場
家計調査報告	内閣統計局



## 短歌

丹

四郎選

### 「夏雜詠」

(賞)  
猿島郡幸島村 小倉 白雨  
麥打てる庭に入り來し物賣はあつき埃に面をむけつゝ  
○ 早生田植付け終りけふの日の氣安き夕餉妻としにけり  
野良ゆ來し吾れを戀しみ鳴く馬にいとしくなりて草やりにけり

北相馬郡菅生村 倉持 保光  
辨天の祠に古りしさいかちが垂らすさや實の揺れ涼しもよ  
草原の晝には遅きこがね照りむし暑くして人のかげなし  
五月雨の佐しき庭のかた隅のハツ手の古葉また落ちにけり  
夜くだちて降る五月雨を床ぬちにききつゝ明日の田植を思ふ  
久慈郡染和田村 豊田 貞次  
月青き夜の草原の露じめり踏みつゝ思ふ人はあらなくに  
行方郡武田村 埴 草風  
十二橋たもとたもとに咲く花の菫浦のはなはいま盛りなり

鹿島郡大同村 西 浦子  
疾く起きし父を朝餉に呼びければトマト畑よ笑み現れぬ  
間をおきてうち揚がり居る遠花火納涼の宵もやや更けにけり  
夕かけて雷去りにけり山峽の稻田を渡る風の涼しさ  
蚊遣焚いて友を待ち居る窓の邊にほのかに匂ふ山百合の花  
ペンを持つ手の汗さへやぬぐはずに統計調査に餘念なき父  
眞壁郡五所村 谷貝 英二  
新治郡藤澤村 愛村 耕夫  
若葉さす窓べにひとり佐びしくも病みてこもれる君をしぞ思ふ

稻敷郡生板村 大野 芽雄  
虫だにもあつさをしれるすがたかなみるも涼しき蟬の羽衣  
○ 紅原の幽けき合歡の花明り雨の暮間は人の戀しも  
おのづから身は冷え來つれ林泉のこの涼しさは夏のものなり

### 次回課題

#### 「初秋雜詠」

締切八月二十日

十首以内



前田 猶春選

題『新樹』『鮎』

○ 鮎釣に日照雨あかるき瀬岩かな 行方郡武田村 鳥次 ゆた香  
 ○ 朝露の雨となりたる新樹かな 同 大和村 内田 六統生  
 天城山麓 同 武田村 埴 草風  
 ○ 八丁池新樹の影の濃かりけり 久慈郡染和田村 豊臣 貞次  
 ○ 鮎釣りに照りつゝ雨の水の上 西 浦子  
 ○ 落の葉に包みし鮎を貰ひけり 鹿島郡大同村 倉持 保光  
 ○ そこはかと新樹の匂ふ舗道かな 北相馬郡菅生村 堀越 宵雪  
 ○ いさゝかの物買ふ家の新樹かな 同 東文間村 谷貝 英二  
 眞壁郡五所村



柳川

山中 緋郎選

『座談會』

座談會思つたよりもうまく出来 行方郡大和村 内田 六統生  
 どん底の部落を救ふ座談會 眞壁郡大村 松崎 ター坊  
 座談會だけでは偉い事も言ひ 行方郡武田村 鳥次 とり坊  
 座談會人氣女優の癖も知り 東京府北多摩郡 田邊 兒太郎  
 座談會女ばかりの腫の動き 函館市 船橋 夢坊  
 座談會友の秘密を素つば抜き 京城市黄金町 小島 大口坊  
 座談會ビールの泡へ喋る事 岡山市 西尾 彩壺  
 座談會遅刻したのがよく喋り 東京市王子區 日野 櫻笑子  
 鹿島郡豊郷村 石津 思水

朝の戸の新樹あかるし深呼吸 稻敷郡君原村 小松澤 霞翠  
 ○ 鮎焼きて主まつ厨灯しけり 久慈郡久慈町 小川 湖村  
 ○ 鮎釣りに里の小川の煙雨かな 猿島郡幸島村 小倉 白雨  
 つながれて山羊のなきゐる新樹かな 鹿島郡豊郷村 石津 思水  
 ○ 鮎釣りの五六尾買ふて戻りけり 新治郡瓦倉村 増子 よし女  
 秀逸(賞)  
 夜釣の灯さして明るき新樹かな  
 ○ 門燈の晝を灯れる新樹かな  
 ○ 銅蓮の雨水溢るゝ新樹かな  
 箱あさく並ぶ小鮎を買へにけり

次の課題『扇』『金魚』通じて十句迄

締切 九月一日限り

座談會本間に入り丸くなり 西茨城郡西山内村 森 祿月  
 座談會仲間外れの様な母 鹿島郡大同村 西 浦子  
 月を褒め乍ら涼しい座談會 岐阜市外 船渡 さざ波  
 座談會恩師を偲ぶことに觸れ 京都市中京區 小坂 ふじ彌  
 座談會濟んでサインをもとめられ 千葉市 泉 瓢堂  
 座談會男は勝手ものにされ 長野市外 小林 琴の舎  
 座談會アナウンサーに急かせられ 佳作 東京市神田區 青柳 壽恵緒  
 座談會はつきり言つて笑はせる  
 ○ あらかじめ指名して置く座談會  
 つい別な話ともなる座談會 緋郎

次回課題『ハイキング』

□締切 八月二十日葉書一人五句以内  
 □宛名 茨城縣廳内統計協會  
 □賞 三才粗賞を呈す

# 本誌廣告料 値下斷行

大に利用せよ

『茨城統計』は創刊以來一年有餘、特異なる編輯を以て讀者諸君に見え、號を重ねるに隨つて益々發行部數を増し數多ある機關雜誌中斷然群を抜き、縣内は勿論、中央に於ても相當認めらるゝに至りましたことは編輯部同人の欣快とする處であります。

○  
而して我が『茨城統計』は元より營利を目的とするものではありません、收支相償ふことによつて、以て初期の目的に副ふことが出來ますれば結構なことでありますので、今回廣告料金の値下げを斷行致しました。

◆特別  
一頁表紙 金貳拾圓なり 金拾五圓に變更  
表裏 金拾五圓を金八圓に  
半頁同 金拾五圓を金八圓に

## ◇普通

一頁 金拾圓を金八圓に  
半頁 金五圓を金四圓に  
四分ノ一金 參圓を金貳圓に

▼同一廣告を引續き二回以上のときは  
一割五分、五回以上のときは二割の割引をします。

▼廣告に寫眞挿入又は木版を要するものは其の費用を別に申受けます。  
▼廣告料は前納に願ひます。

茨城縣廳

茨城縣統計協會

## 編輯後記

野も山も青一杯、虚子が咏んだ『風が吹く佛來給ふ氣配あり』の何時しか盂蘭盆だ人は縁をたつねて、汐吹く微風を追つて爽涼を求めあるくであらうが、我等農人は居ながらにして爽涼萬斛、綠一色、夏は吾人の獨境ともいへる。

× ×  
本誌年を閲する一年半、號を重ねること十回、爽味萬斛とまではいかないが、幸ひにして各位の深甚なる指導と鞭撻により、やゝ趣きある雜誌になり得たことは喜ばしい。

× ×  
殊に讀者の皆さんから貴い體驗なり、御

希望なり、御感想なりを澤山に戴いて、誌面を賑はすことの出來ますのは編輯者にとり此の上もない喜びである 今後共どし〳〵お送り下さい。最初に聲明した如く我が『茨城統計』は本縣統計協會の機關であると同時に、諸君の機關であり、諸君の代辯機關であることを高らかにふりかざし、諸君の強固なる城寨として、大いに誇り得るやう致したいと念願してやまない。

—富岡如夢—

昭和十一年七月十三日印刷  
昭和十一年七月十五日發行

(隔月一回十五日發行)

一部金十錢

水戸市北三ノ丸茨城縣廳

茨城縣統計協會内

發行兼

編輯人 川崎末吉

印刷人 柴博

水戸市南三ノ丸一〇七ノ二

印刷所

柴印刷所

水戸市北三ノ丸 茨城縣廳内

發行所

茨城縣統計協會